勝部ちこ＋鹿島聖子
(コンタクト・インプロビゼーション・グループ CIco)

Chico KATSUBE+Shoko KASHIMA
(Contact Improvisation Group CIco)

勝部ちこ・鹿島聖子はお茶の水女子大学大学院で舞踊教育学を修め、NYでダンスを研修。2000年、コンタクト・インプロビゼーション（以下CI）を多様なアプローチで普及させようという主旨でCIco（しーあいしーおー）を設立。「ふれあう事から始まるダンス」として、CIの広く深い可能性を追求し、これまでに国内・海外各地でのワークショップや公演、国際フェスティバルの開催等を行ってきている。各地の保育園、小学校、大学、公共ホールでのWSや公演、企業の採用試験面接・研修、乳幼児対象のパフォーマンスなど、「コミュニケーション」「身体」「社会」をキーワードにダンスの多様性・可能性を追求する日々。2012年、東京から鹿児島に本拠を移し、「芸術と社会」「身体と自然」の関係を見直し、独自の芸術活動を展開中。

所属カンパニー　コンタクト・インプロビゼーショングループCIco
ホームページ　http://www.ci-jp.2-d.jp http://i-dancejapan.net
電　　話　090-3910-6716（カツベ）
E-mail　chicokatsube@icloud.com（勝部）shokokashima@mac.com（鹿島）
ci@ci-jp.com（グループ）
在 住 地　鹿児島県伊佐市
出 身 地　大阪府大阪市（勝部）　千葉県船橋市（鹿島）

Photo:大龍洋一

活動歴

〈2000年5月〉コンタクト・インプロビゼーショングループCIco設立
〈2005年10月〉ユニット結成、イスラエル・CIフェスティバルに参加(イスラエル)
〈2005～07年〉地域創造ダンス活性化事業（名取市文化会館、倉敷市芸文館、会津若松市風雅堂）
〈2007年8月〉名取市文化会館10周年記念「なっさい」演出、出演（名取市文化会館）
〈2008～10年〉Contact Improvisation Festival Japan 主催（東京、金沢、神戸）
〈2011年１～3月〉ダン活支援事業（兵庫県和田山ジュピターホール）
〈2012年5月〉NHKドラマ「はつ恋」タイトルロールに出演／監修
〈2013年～〉国際コンタクト・インプロビゼーションダンスフェスティバルi-Dance Japan主催運営（鹿児島）
〈2013～14年〉地域創造ダンス活性化事業（近江八幡市文化会館、釧路市文化会館）
〈2014年5月〉TEDxKagoshimaにスピーカーとして登壇
〈2001～03、07～09、13年度〉セゾン文化財団助成の助成を受けて活動
〈2021年11月〉鹿児島県ユニークベニュー活用促進事業　霧島アートの森にてパフォーマンスなどを総合プロデュース
〈2022年9月〉ワークショップ参加者たちと「新たな日常の幕が開く～即興ダンスのたねあかし公演」を実施（鹿児島県伊佐市）

ワークショップ歴

〈2007年〉「盲学校deアート」（群馬県立盲学校　盲学校生徒、群馬大学教育学部）
〈2008～11年〉子どものための文化体験プログラム（豊島区内保育園、保育園児、豊島区/NPO法人芸術家と子どもたち）
〈2009～11年〉ワークショップデザイナー育成プログラム（社会人、青山学院大学／文部科学省社会人教育推進事業）
〈2011年〉東日本大震災復興支援事業　（大熊町からの避難小学生対象　会津若松市内小学校、JCDN）
〈2011年〉「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」（会津若松湊小学校、全校生徒対象、（財）福島県文化振興事業団）
〈2013年～〉乳幼児、小学生、親子、地域リーダー対象講習会、パフォーマンス開催（鹿児島市　かごしま子ども劇場）
〈2015年〉復興庁主催説明会において、避難者、支援者に向けての講習会開催（岡山県総社市）
青山学院大学大学院、お茶の水女子大学、慶応義塾大学、筑波学大学院、立教大学などで非常勤講師。CIを開講（2012年度まで）
〈2020年～〉一般対象にコンタクト・インプロビゼーションを基本としたWS「大人の身体哲学ダンス」開講

可能なワークショップ等のスタイル

コンタクト・インプロビゼーション（CI）をベースに、心と身体を柔らかく自由にコミュニケーティブ／クリエイティブにするワークショップです。

アウトリーチ

『からだはおもちゃばこ』
道具を使わず友達と身体で遊ぶ（幼児、小学生、親子対象）

公募ワークショップ

❶『ダンス・インプロビゼーション』
おしゃべりな身体を準備したら、言葉を使わずに他者とコミュニケーション（＝ダンス！）。そこには、大脳からではなく、身体が捉える叡智から心の繋がりを発見し、氣の交感で隅々まで生きる自分を見つけるでしょう。CI は、発想の転換、概念の転換。身体とこころから、社会や生き方を捉え、未来に向けて大切な事を他者との交流を基に考えていきます。そのマジックを磨いて行きましょう。

❷『パフォーマンス・インプロビゼーション』
即興パフォーマンスはどのように作られるのか、の理論、哲学、実践。一人一人がその瞬間の演出／振付／実演／鑑賞を兼ねること、「100％の主張と 100％の協調」を追求すること、等を学んでいきます。

◎実施条件（共通）
▶アシスタントの有無：無し
▶参加適正人数：20～30 名程度
▶1 日の実施可能回数・時間：2 コマ ※1 コマ 120 分
▶必要機材：CD プレーヤー、iPhone 等の出力ミニプラグ
▶対象：どんな方でもOK。ご希望、事業目的に併せてともに検討し対応します。
▶その他：柔らかい木の床、またはリノリウムの床が理想。寒すぎない空間。

この事業で可能な公演スタイル

レパートリー作品

❶『Phase 47』
構成のある即興の作品。～【生命の可動域】を表現するとなれば、そのことは「即興」という表現方法が一番適しているのかもしれないと感じさせられた。その瞬間、生命の可動域を・・・「なんとなく見ました」ではなく、「まざまざと見せられた」気がしたからだ。～観客ノートより
▶上演時間：45 分　▶出演者数：3 名（登録のダンサー 2名＋ピアニスト）　※ワークショップ参加者の出演なし　▶必要機材：ピアノ

❷『くるんころんくるんころん』
０～18ヶ月の乳幼児の親子対象に見せる作品
鑑賞から参加型にゆるやかに繋がる。
▶上演時間：45 分　▶出演者数：4 名 (登録のダンサー＋音楽家)　※ワークショップ参加者の出演無し

市民参加作品

『WAVE』
ワークショップ参加者と一緒に作っていく即興の作品。構成、演出を施すが、振付けはなく各自が動きを見出していく。
▶上演時間：20分　▶出演者数：2名(登録ダンサー)
※ワークショップ参加者の出演有り(5～15 名)

◎実施条件（共通）
▶同行スタッフ：その他（下記、現地スタッフが手薄な箇所を補いたい。）　▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名、その他（写真、映像）各1名　▶上演環境：⑴会場の広さ・形状：規定はなくフレキシブルに対応可能。劇場外の空間でも魅力的に捉えて考える　⑵床、リノリウムの有無・色：どちらでも可能　⑶必要機材、舞台セット：なし　▶その他：照明、音響のスタッフは、即興に興味があり、ともに作品を作り上げてくれる姿勢の方がのぞましい。